
双銃の異世界人

雨流 光希

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

双銃の異世界人

【Nコード】

N4703Z

【作者名】

雨流 光希

【あらすじ】

両親^{おり}が居ないながらも、平凡な生活を送っていた高校一年生、式^{しき}織^{おり}月斗^{つきと}

彼の生活は、一通の送信者不明のメールにより大きくその人生を変えられた。

良い意味でも悪い意味でも大きく。

序章・きっかけ

スマートフォンを操作しながら帰路につく。季節は冬。まだ午後六時前なのに、辺りはすっかり暗くなっていた。

（少し図書室でゆっくりしすぎたかな。でもあの小説は面白かったな）

そんな事を考えつつ彼、式織 月斗は少しだけ歩調を早めた。制服の上にダッフルコートを着ているとは、さすがに寒い。ぶるるっ。

短く震えスマートフォンが手の中でメールが来た事知らせる。

（ん？なんだこれは）

メールには送信者のアドレスがなかった。

本文だけの簡素なメール。そこにはこう書かれていた。

『このメッセージを受け取ったあなたにお願いがあります。

私達を助けて。聞き届けてくれるなら、この言葉を唱えてください。

ゲートオープン』

悪戯にしても凝ってるな。最初に抱いた感想はそんなもんだった。

ただアドレス無しでメールが着たことに戸惑った。もし本当に助けを求められていても、連絡の取り様がない。

本当に信じていたわけではないが、先程読んでいたファンタジー小説の影響もあるだろう。歩く足を止め、月斗は声に出してみた。

「ゲートオープン」

冷たい風が顔を撫でた。目で見ただけ限りの景色に変化はない。

（やっぱり悪戯だったのか、なんと手の混んだ）

そう思い再び歩き始めようとした所で、世界は変わった。周りの景色が月斗を中心に回り出す。次第に回転の激しさを増し、狭まって行く。

「まてまて、現実的に考えてありえないだろ！なんだよ。これ？」
あまりの事に戸惑い、答えが返ってくるはずもない問いを口に出す。
その間も回る景色は狭まり続け、あと数センチで接触するという所
で月斗は意識を失った。

ファンタジー世界

「ね・・・ねーいき・・・」
身体を揺さぶられる感覚と共に頭の上から、声を掛けられているようだ。

どうやら意識を失ってしまったてい？たたらしたい。月斗は軽い頭痛に顔をしかめながら、目を開けた。

「ああ、大丈夫だ」

まだぼんやりとしか見えないが、相手は少女のようだ。反応があった事に安心したのか、その子は近くにあった椅子に腰かける。

「よかった。せっかく呼んだのに動かないんだもん。失敗したのかと思って心配したわ。身体は動く？」

頭痛も消え、視力も戻ったようなので、月斗は立ち上がる。目の前にいた子はとてつもない美人だった。背中の中ほどまで伸びた水色のロングヘアに、同色の快活そうな瞳。胸は控えめだが、スレンダーなスタイルは、異性、同性共に惹きつけるオーラが漂っている。見た目には同年代に見えるが、フリフリしたロリータファッションの為、年下にも見える。

「身体は平気だけど、呼んだって？学校の近くに居たはずだけど？」
一瞬、目を奪われてしまったが、月斗は少女に疑問を問う。

「あら？メッセージにあったはずだけど？助けてくださいって。一応説明しておくけど、ここはヴィラルよ。貴方は私のメッセージに答えたから、私達の世界に来たってわけ」

少女は薄く笑う。妖艶な笑みだが、服のせいで少女には似合わない。
「はっ？あれはマジだったって事か！夢なら冷める起きるんだ俺！」
少女に言われた事を急には信じられず、取り乱す月斗。

「これで信じられる？」

少女は右手をグーにした後、人差し指を伸ばす。

「なっ」

月斗は驚愕の表情を浮かべる。

少女の人差し指の先には、水が球体になり浮いている。

「信じて貰えたかしら？そろそろお互い自己紹介しましょう。私はアリス・L・レリスティア。レリスティア皇国第三皇女よ。よろしくね」

少女改めアリスは水球を消し、右手を差し出す。

「式織 月斗」

いろいろあって頭のキャパシティがパンク気味な月斗は、そういつて手を握るのが精一杯だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4703z/>

双銃の異世界人

2011年12月15日23時56分発行